

「いのちを守る小田原」をどう創るか

～被災地・相馬市の立谷秀清市長を迎えて～

第1部：被災地からの報告 (相馬市・立谷市長)
～被害の状況と、地域再生へのこれまでの取り組みから～

第2部：小田原における取り組み (小田原市・加藤市長)
～被災地支援活動と、小田原の被災、防災対策補強など～

第3部：今後の被災地支援と、「いのちを守る小田原」を考える
～立谷市長・加藤市長の対談と、参加者との意見交換～



6月26日(日) 14:00～16:30(受付開始13:30)
小田原お堀端コンベンションホール
(ジャンボーナックビル5F)

参加申し込み 当日受付のみ(先着500名様)
参加費1000円(必要経費を除いて義援金とします)

募金箱も設けます

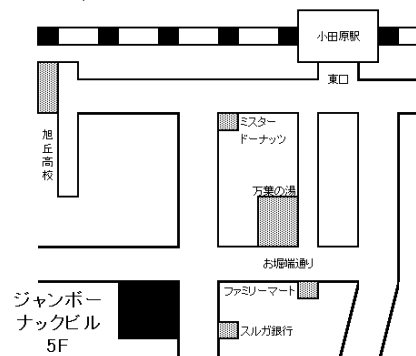
主催 おだわらを拓く力(加藤けんいち後援会)

お問い合わせ

〒250-0011 小田原市栄町2-13-1 そびそ二宮ビル2F

Tel 0465-21-5260 Fax 0465-21-5261

オープン時間 月・水・金(祝日を除く)10:00～17:00



市長と一緒に考えよう

被災地とつながって、小田原も生き延びる方法

東日本大震災という未曾有の災害は、私たちに、実に多くの課題を与えています。

被災地では、実際にどのようなことが起こり、それをどう乗り越えているのか。大地震がほぼ確実に訪れると言われている小田原では、今からどんな備えをし、どんなまちづくりをしていけばよいのか。私たちは、しっかりと現実を見つめ、取り組みを始める必要があります。

今回のフォーラムでは、過酷な被災地で陣頭指揮を執っている立谷秀清・相馬市長が、小田原までお越し頂ける機会に恵まれました。この機をとらえ、小田原とご縁の深い相馬地方の被災の現実を直接に聴かせて頂くと共に、この間小田原で取り組んできたことを振り返りながら、「いのちを守る小田原」をいかに創っていくか、参加者の皆さんと考えたいと思います。併せて、復興への長い道のりを歩み始めた相馬市の皆さんに、小田原から支援の気持ちを伝えましょう。

立谷秀清 (たちや ひできよ) さん

福島県立医科大学医学部卒業 平成14年1月に相馬市長に就任、現在3期目。60歳。市長就任直後からメルマガを配信し、自らの思いを市内外に発信。

相馬市は福島第1原発から約45kmに位置する。今回の津波では、地元消防団の献身的な活動で被災地域の9割の住民が助かる。しかし、消防団員10人が殉職。相馬市では、親を失った「震災孤児」に対し、18歳になるまで毎月支援金を支給する条例を制定した。

尊徳ゆかりの相馬市

★小田原が生んだ偉人・二宮尊徳が全国600ヶ村に及ぼした報徳仕法の実践の中で、相馬地方で展開された仕法こそは、最も優れた成果を残したと言われている。

★「報徳仕法史」によれば、27年間に及ぶ仕法実践により、新たに開墾された荒地は約1,379町歩(ha)、構築された堤防や堰は100ヶ所、築かれた農業用水溜池は692ヶ所、新たに普請した家は573軒、提供された窮民救助米は約14,820俵などの実績が記録されている。

★この背景には、当時の相馬藩主らが賢君であり領民への思いがそもそも深かったことに加え、尊徳の弟子であり相馬仕法の中心人物であった富田高慶らの指導に、藩主・藩士・領民らがよく理解し力を惜しまなかったこと、そして仕法が成功し復興が成った村が、他の村に対して積極的に推譲をするなどの美風があったことなどが挙げられている。実際、今でも相馬地方では二宮尊徳に対する敬慕の念は篤い。

★報徳ゆかりの全国18市町村で構成される「全国報徳研究市町村協議会」には、小田原市、相馬市はともに加盟をしており、報徳サミットの活動などを通じて交流を育んできている。

★震災後、立谷・相馬市長から加藤・小田原市長への直接の要請により、小田原からは、相馬市による震災孤児への学資支援活動への協力と、津波で被災した地域の事業者や住民からのニーズに基づくボランティア派遣(1チーム10名を一週間交代で、5月10日～)を継続中。(詳しくは市HPに掲載)

小田原市では、相馬市が設置した「震災孤児基金」への募金を呼びかけています。尊徳が大切にされた「推譲(今あるものを未来の為に譲る)の精神」を今こそ甦らせて、子どもたちに支援の手を差し伸べましょう